

目黒区長 殿

2022 年 3 月 31 日

令和3年度第三者評価結果報告書

〒153-0063
住所 東京都目黒区目黒2丁目10番
5の101号
電話番号 03-3495-4283
評価機関名 特定非営利活動法人
関東シニアライフアドバイザー協会
代表者氏名 佐藤 昌子

下記のとおり評価を行ったので報告致します

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---------------|-------|----|---|----|---|---|------|---|----|---|----|---|
| 対象事業所 | 駒場小学校内学童保育クラブ | | | | | | | | | | | | |
| 評価者 | 1 | 鈴木 正明 | | | | | | | | | | | |
| | 2 | 山田 紀子 | | | | | | | | | | | |
| | 3 | | | | | | | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | | | | | |
| 評価実施期間 | 2021 | 年 | 9 | 月 | 17 | 日 | ～ | 2022 | 年 | 3 | 月 | 31 | 日 |
| 利用者調査実施時期 | 2021 | 年 | 10 | 月 | 28 | 日 | ～ | 2021 | 年 | 11 | 月 | 30 | 日 |
| 訪問調査日 | 2022 | 年 | 1 | 月 | 27 | 日 | | | | | | | |
| 評価者合議日 | 2022 | 年 | 2 | 月 | 7 | 日 | | | | | | | |
| 評価結果報告日 | 2022 | 年 | 3 | 月 | 31 | 日 | | | | | | | |

詳細講評

評価基準

| | |
|---|--------------------|
| A | 評価項目を実施している |
| B | 評価項目を実施しているが十分ではない |
| C | 評価項目を実施していない |

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

| 通番 | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|----|------------------------------------|----|--|
| | (1)理念・基本方針が確立・周知されている。 | | |
| 1 | ① 理念・基本方針を確立・明文化し、職員及び利用者等に周知している。 | A | 法人は理念とスローガンをホームページで公表し、基本的事項を職員に周知しています。年度初めのミーティングでも職員に説明し意識統一を図っています。保護者には入会のしおりに明記し、入所説明会等では理念等と共に方針も周知しています。 |

I-2 運営状況の把握

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---|----------------------------------|----|--|
| | (1)運営環境の変化等に適切に対応している。 | | |
| 2 | ① 事業運営を取り巻く環境と運営状況を的確に把握・分析している。 | A | 目黒区が毎月開催する民営学童保育クラブ連絡会に参加し地域の状況を把握しています。保護者にはアンケートを実施し意向・要望等を把握し、その結果を施設の運営に活かしています。法人の運営する施設ブロック会議でも地域の事業環境と施設運営状況の共有を図っています。このような活動を通して把握した情報を基に半年ごとにPDCA(計画・実施・確認・処置)に従い分析して課題を明確にし対応策を講じています。年度末には運営状況の総括を行い課題を抽出してその分析と評価を実施しています。当年度の振り返りで得られた結果を次年度の事業計画に反映しています。 |
| 3 | ② 運営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 | A | |

I-3 事業計画の策定

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|--|----|--|
| (1) 中・長期的な目標と計画が明確にされている。 | | |
| 4 ① 3～5年の中・長期的な目標を明確にした計画を策定している。 | A | 法人の役員会・部次長会で検討し中長期事業計画を策定しています。これは行政の指針、保育サービスのトレンド、利用者の意向等を踏まえたものとなっています。中長期事業計画は法人内の施設長会議で説明され情報共有が図られています。当施設では法人の中長期計画を踏まえ、目黒区の基本計画、基本構想、子ども条例に基づき策定された子ども総合計画等を反映した事業計画・保育計画を策定しています。施設長は年度初めの職員会議で中長期事業計画の内容を説明し情報の共有を図っています。 |
| 5 ② 中・長期計画を踏まえた年度の計画を策定している。 | A | |
| (2) 事業計画が適切に策定されている。 | | |
| 6 ① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。 | A | 中長期事業計画を基に当年度の事業計画を策定しています。目黒区の方針、民営学童保育クラブ連絡会からの情報、法人の事業計画、事業の振り返り等で入手した情報等を基に策定します。計画の策定は施設長や職員の声も反映した、ボトムアップの意向を取り入れたものとなっており、施設長会議等でも共有されています。年度初め(4月)に施設長は職員会議で年度計画、事業目標を職員に周知しています。子どもや保護者には入所のしおり、ホームページ、学童保育だより等を通して活動計画や行事予定等を伝えています。 |
| 7 ② 事業計画を子どもや保護者等に周知し、理解を促している。 | A | |

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---|----|--|
| (1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。 | | |
| 8 ① サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。 | A | 施設長は職員と面談して意向や希望を確認しています。子どもや保護者にはアンケート調査に加え、子ども用リクエストBOXやご意見箱を設置して意向や要望の収集に努めています。入手した情報を分析し必要により対策を実施しその振り返りも行っています。施設長会議等でも情報共有が図られています。法人のエリアマネジャーが各施設を巡回し取り組むべき課題があるかを確認しています。課題がある場合には施設と一緒に改善策を検討し、次回巡回時に改善策の進捗状況を確認するなどして、サービスの質向上に組織的に取り組んでいます。 |
| 9 ② 組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。 | A | |

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|-------------------------|---------------------------------------|----|--|
| (1)管理者の責任が明確にされている。 | | | |
| 10 | ① 管理者は自らの役割と責任を職員に対して表明し、理解を図っている。 | A | 施設長の職務及び責任は施設長マニュアル及び各種マニュアルに明記されており、施設長等に対しては直接対話方式で法人の経営姿勢を明確に伝えています。施設長は職員会議で職責と役割を説明し目指す方向を明確にしています。 法人では専門部会が中心となって改訂を含む関連法令を施設職員に周知しています。当施設では目黒区の各種条例等をファイル・保管しており職員は常に関連が可能です。 |
| 11 | ② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 | A | |
| (2)管理者のリーダーシップが発揮されている。 | | | |
| 12 | ① 学童保育クラブの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。 | A | アンケート調査で利用者から寄せられた利用者の声を職員と共に分析し必要な改善を行う等、提供しているサービスの質の向上に努めています。施設長は職員と面談を行い自己評価シートを活用する等で自己研鑽にも努めてもらうように促しています。また、法人施設間の連携を重視し施設長会議等で情報を共有し、職員にフィードバックしています。 管理者会議では全施設長に法人の収支状況(月次、四半期ごと)の報告を行い経営状況の共有を図っています。施設長は施設の人材管理、業務、自治体連携等を推進し、職員と共に業務改善を図り円滑な施設運営を推進しています。 |
| 13 | ② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。 | A | |

II-2 福祉人材の確保・育成

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|----------------------------------|---|----|--|
| (1)福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。 | | | |
| 14 | ① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組を実施している。 | A | 法人では新卒者チーム、転職者等担当チーム等が中心となり組織的な人材確保に努めています。職員の定着についてはブラザー&シスター制度、短時間勤務制度、産休後の職場復帰等の体制も整備されています。施設長は職員のメンタル面の把握に努め解決すべき課題があれば対応するよう努めています。育成の為にOJT機能、職員の相談に応じるブラザー&シスター制度等もきちんと機能しています。指導員の採用にあたっては法人と施設、必ず2ヶ所で面接し施設長や職員の評価を重視して行っています。 |
| 15 | ② 総合的な人事管理が行われている。 | A | |

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|----|--------------------------------------|----|---|
| | (2)職員の就業状況に配慮がなされている。 | | |
| 16 | ① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。 | A | 勤務制度として時短勤務制度採用のほか産休後の職場復帰支援体制も整備し、シフト勤務等の制度を総合した管理を進めています。残業ゼロを目指したToDoリストで業務を把握・管理し、毎朝のミーティングで職員の作業確認を行うことで状況をフォロー、働きやすい職場作りを進めています。 |
| | (3)職員の質の向上に向けた体制が確立されている。 | | |
| 17 | ① 職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定し実施している。 | A | 法人の人材育成総合計画に沿って、全社研修を実施しています。年度の事業計画で各階層ごとにスキルアップ目標を設定し、職員は目標達成シートにより自己目標を定めています。各階層別の研修体系はキャリアパスとなっています。法人による内部研修と共に外部研修機関の研修受講、資格取得応援制度も設定され、外部研修参加者の偏りもないようにしています。オンライン研修受講制度は構築中ですが職員の総合キャリアプランを設定して、職員の希望と法人の期待を目指した複線人事制度を運用しています。区の主催する研修については職員が積極的に参加するように配慮しています。 |
| 18 | ② 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。 | A | |

II-3 経営の透明性の確保

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|----|------------------------------------|----|--|
| | (1)事業主体の経営の透明性を確保するための取り組みが行われている。 | | |
| 19 | ① 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組を行っている。 | A | 透明性を以って事業を推進するために、経理処理については顧問税理士の指導により運営を行っています。子どもや保護者のアンケート調査結果や施設の自己チェックシート等は区のホームページの施設別サイトで公表されています。アンケートの中で評価が低い項目については改善を図るようにしています。保護者には入所のしおり、保護者向け配布資料等で当年度の活動計画、課題への取り組み等を説明し、毎月おたよりを配布して施設運営の透明性確保に努めています。 |
| 20 | ② 運営の透明性を確保するための情報公開を行っている。 | A | |

II-4 地域との交流、地域貢献

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---------------------------|---|----|---|
| (1) 地域との関係が適切に確保されている。 | | | |
| 21 | ① 学童保育クラブと地域との交流を広げるための取組を行っている。 | A | 地域の店が作った菓子パンやからあげ、たこ焼き、焼きそばなどをおやつとして提供しています。駒場児童館の職員が来て児童館イベント(1年生の歓迎パーティー)を実施してくれたり、千羽鶴作りなどのイベントに参加したり、土曜日保育などで児童館を利用しています。クラブのおたよりは、地域の他学童保育クラブや児童館、住区センターに送って情報発信しています。 |
| 22 | ② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。 | B | 法人としてはボランティア受け入れ態勢を整えており、当施設も積極的にボランティアの受け入れを目指していますが、受け入れには十分な準備が必要と思われます。まずは地域の社会資源として、中高生の職業体験等に協力できるような体制の検討が望まれます。 |
| (2) 関係機関との連携が確保されている。 | | | |
| 23 | ① 学童保育クラブとして必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携を図っている。 | A | 子育て支援課児童館係等、目黒区の関係諸機関とはこまめに連絡を取り合い、定期的に行われている民営学童保育クラブ連絡会などにも参加して関係を深めています。小学校とも良好な関係を築けるよう日々連絡を取り合い、子どもの事で気になることがあった場合は、直接情報交換をするようにしています。 |
| (3) 地域の福祉向上のための取組が行われている。 | | | |
| 24 | ① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組を行っている。 | A | 地域の児童館や学童保育クラブのおたより、区報などに目を通し、地域の福祉ニーズ等の把握に努めています。駒場小学校や目黒区の子育て支援課児童館係等とは常に連携をとり、学校や地域の情報と状況の変化などを把握できるようにしています。コロナ禍が続いている中ですが、児童館と連携したイベントに参加したり地域行事に作品を出展するなどを実施しました。また、保護者の情報等から、子ども達の放課後や休日の過ごし方、地域で行われている習い事などの状況等、地域の子どもの実態を把握ながら、コロナ禍においても学童保育クラブとして「できること」を模索して実施するように努めています。 |
| 25 | ② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動を行っている。 | A | |

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---|----|---|
| (1) 子どもや保護者等を尊重する姿勢が明示されている。 | | |
| 26 ① 子どもや保護者等を尊重した福祉サービス提供について共通の理解を持つための取組を行っている。 | A | 全職員が共通の認識・理解をもって保育することができるよう、日々のミーティングや常勤職員間でのミーティング等行ったり、文書を回覧するなどして情報共有を図っています。目黒区学童保育クラブ保育指針や区の各種マニュアル、職員マニュアルなど、常に確認できるよう事務所に置いて必要に応じて読み合わせも行っています。 |
| 27 ② 子どもや保護者等のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供を行っている。 | A | 個人情報については、入社時に誓約書・職員マニュアルの読み合わせを行い、社内の個人情報取り扱いマニュアルや区の仕様書・方針に従った管理を徹底しています。おたより等での写真や名前の掲載については、入所時に保護者の了解を得ています。 |
| (2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。 | | |
| 28 ① 利用希望者に対して必要な情報を提供している。 | B | 小学校内のタイムシェア施設として開設2年目であり、地域内の利用希望者等への情報提供についての取り組みはこれからの課題となっています。見やすいパンフレットの作成や地域向けの作り作成などの工夫をしながら、少しずつ地域に認識されるような取り組みが期待されます。 |
| 29 ② 学童保育クラブの利用開始・変更にあたり子どもや保護者等にわかりやすく説明している。 | A | 入所時には、しおりを配布して説明会を実施して保護者に説明を行っています。夏休み前には、過ごし方についてのしおりを別途作成して伝えるようにしています。また、学童保育クラブ利用時や事前に伝えていたイベントの内容変更等があった場合は、連絡帳や文書配布、電話連絡などを行って事前に説明するようにしています。 |
| (3) 子どもや保護者等の満足の向上に努めている。 | | |
| 30 ① 子どもや保護者等の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。 | A | 個人面談やお迎え時等に保護者からの意見や要望を個別に丁寧に聞き、活動内容に活かせるようにしています。子どもたちの会話や子ども同士の何気ないやりとりから感じた気づきは職員全員で共有しながら、子どもの気持ちを大切に学童保育クラブ生活ができるようにしています。 |

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|---|----|---|
| (4)子どもや保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。 | | |
| 31 ① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。 | A | 社内の苦情対応マニュアルに沿って職員がいつでも対応することができるように体制を整えています。法人内でも職員が相談し合える仕組みが作られており、クレーム対応研修も行っています。保護者に対しては、個人面談や連絡帳、お迎え時のやりとりを通して意見や相談を聞くとともに、希望があった際はいつでも面談や電話での相談を受け付けていることをおたより等で周知するようにしています。 |
| 32 ② 子どもや保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、周知している。 | A | 子どもと保護者ともに、遊びの時間やお迎え時の会話などを通して日々のコミュニケーションを大切にしながら関係を築けるように努め、相談しやすい関係を作れるように努めています。子どもたちの日々の活動の中や保護者から知り得た情報などはミーティングで共有し、内容によっては対応方法を検討しています。施設内のみでの対応が難しい場合は、法人のエリアマネージャーや目黒区子育て支援課児童館係に相談し、対応方法を検討するようにしています。 |
| 33 ③ 子どもや保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。 | A | |
| (5)安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。 | | |
| 34 ① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制を構築している。 | A | 法人運営の各施設に施設内の安全を守る「セーフティーキーパー」を任命して、セーフティーキーパーを中心に日々リスク管理を行っています。また、年3回、ブロック毎のセーフティーキーパーが集まり、会議を通して各施設のリスクマネジメントについて事例検討・情報共有を行っています。施設長含めた職員は、マニュアルを確認しながらチェックリストを活用して、安心・安全管理に努めています。 |
| 35 ② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 | A | 感染症の予防や発生時の対応については、目黒区の方針に従って対応するようにしています。特に新型コロナウイルス感染症に関しては、区の感染症マニュアルやガイドライン等リアルタイムの情報を職員に周知して対応するようにしています。避難訓練や地元警察署による防犯・防護講習、突発災害や公共交通機関等、様々なシーンを想定した日常訓練を子どもたちと一緒に毎月実施しています。フローチャート式の安全管理マニュアルや避難場所、ハザードマップなどを事務所に掲示して、いつでもすぐに確認できるようにしています。 |
| 36 ③ 事故・災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。 | A | |

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|--|----|--|
| (1) 提供する育成支援の標準的な実施方法が確立されている。 | | |
| 37 ① 育成支援について標準的な実施方法を文書化している。 | A | 日々の保育については日案を立てて運営しています。日案については、夕方のミーティングで一日の保育を振り返り、翌日以降の日案作成に活かしています。また、子どもや保護者からの声・意見を聞いて、保育内容や運営内容を見直すように努めています。入所時に渡すしおりについても、新年度の説明会に向けて毎年内容の見返しを行い、情報を更新するようにしています。 |
| 38 ② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。 | A | |
| (2) 子どもに対する育成支援の計画が策定されている。 | | |
| 39 ① 育成支援の計画を適切に策定している。 | A | 年度末に年間目標、保育方針、活動計画等の年間計画を立て、計画に沿った育成支援を行っています。日々の活動については日案を作成し、日案に沿って保育に当たっています。日々の保育については、運営後のミーティング内で振り返りを行い、必要に応じて改善・対応を検討しています。イベントや年間計画等についても必ず振り返りを行い、課題や改善等を職員間で共有して次の計画策定に反映させるようにしています。 |
| 40 ② 定期的に育成支援の計画の評価・見直しを行っている。 | A | |
| (3) 育成支援実施の記録が適切に行われている。 | | |
| 41 ① 子どもに関する育成支援の記録が適切に行われ、職員間で共有している。 | A | 日々の記録は保育日誌に記載して管理しています。1日の育成支援の中で特に情報共有が必要と判断されたものは、運営後のミーティングと翌日運営前に行うミーティングで職員に周知するようにしています。子ども一人ひとりの記録については、個人面談や児童台帳、子育てスーパーバイザー相談連絡票などに記載し、個人面談や子育てスーパーバイザーの巡回指導後に全職員でミーティングを行いながら情報を共有しています。 |
| 42 ② 子どもや保護者等に関する記録の管理体制が確立している。 | A | 記録はマニュアルや目黒区の規定に従い、すべて鍵付きキャビネットやパスワードのかかったパソコン内に保管・管理しています。 |

IV 学童保育クラブの活動に関する事項

IV-1 育成支援

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|----------------------------------|--------------------------------------|----|---|
| (1)子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備 | | | |
| 43 | ① 子どもが安心して過ごせる生活の場としての環境を整備している。 | A | 運営開始前や終了後に安全点検チェックリストを使って、育成室、トイレ等の場所に針や備品の破損等危険物がないか確認しながら掃除を行っています。現在はコロナ対策のため、テーブルや机の数を増やし、学習やおやつの際は全員同じ方向を向いて座れるように配慮しています。 |
| (2)学童保育クラブにおける育成支援 | | | |
| 44 | ① 子どもが学童保育クラブに自ら進んで通い続けられるように援助している。 | A | 個人面談や電話などで保護者に子どもの様子を聞き取り、子どもとの日々のかかわりに反映させていますが、子どもが「行きたくない」と言っている時は、子どもから話を聞いたり遊んでいる様子を注意深く見るなどして、個別に対応するようになっています。また、状況に応じて登所時間に学校付近まで様子を見に行き、声をかけたり一緒に育成室まで行くようになっています。 |
| 45 | ② 子どもの出欠席を把握し、適切に援助している。 | A | 子どもの出欠席は、月末に翌月の出欠予定を連絡帳のカレンダーに記入し、予定変更の場合は連絡を入れてもらうようになっています。当日連絡がなく登所しなかったり、事前に聞いている帰宅時間と子どもの認識が違う場合等は、必ず保護者に連絡を入れて確認するようになっています。 |
| (3)子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにする育成支援 | | | |
| 46 | ① 子ども自身が見通しをもって主体的に過ごせるように援助している。 | A | 毎日、受付のホワイトボードに子どもの下校時間と一日の活動の流れ(スケジュール)を掲示して、子どもが自分で予定を把握して行動できるようにしています。クリスマス会や夏祭りなどのイベントに関しても、子どもたちの提案に基づいて計画し、子どもたちが主体となって準備・実施しています。 |
| 47 | ② 日常生活に必要となる基本的な生活習慣を習得できるように援助している。 | A | 子どもたちが、登所してからやること、帰り支度をする事など、掲示した内容と照らし合わせて確認しながら自分で出来るようになっています。また、活動前の手洗い・消毒、トイレの使い方、汗をかいたら着替える等、繰り返し声掛けをして基本的な生活習慣が身に着くように促しています。 |

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|----------------------------|---|----|--|
| 48 | ③ 子どもが発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができるように援助している。 | A | <p>イベントを計画する時は、年齢や発達段階に関わらず楽しめる内容にしたり、状況に合わせて作業工程の難易度を柔軟に変えることができるように工夫して子どもたちが楽しめるようにしています。ルールのある遊びを行う際は、職員が上級生に教えたことを、上級生が下級生に教えられるように促しています。一人遊びや職員と関わる時間が多い子どもは、無理のない範囲で子ども同士で遊んでいる輪に入れるように促したり、一緒に遊びながら関係を築けるようにしています。</p> <p>子どもが自分の気持ちを上手く伝えられない様子が見られた時は、職員が仲介したり代弁して伝え方や表現方法を知らせるようにしています。また、様子を見ながら相手にも話を聞けるよう促して、自分の力で伝える力が身に付けられるように援助しています。</p> |
| 49 | ④ 子ども同士の関係を豊かに作り出せるように援助している。 | A | |
| 50 | ⑤ 子どもが自分の気持ちや意見を表現することができるように援助している。 | A | |
| (4)固有の援助を必要とする子どもへの適切な育成支援 | | | |
| 51 | ① 障害のある子どもの受入れの考え方を理解したうえで、受け入れに努めている。 | A | <p>現在まで障害のある子どもの受け入れはありません。マニュアル等整備するとともに、目黒区学童保育クラブ保育指針や仕様書を読んで、障害のある子どもの受け入れの考え方や留意点を理解した上での支援等、情報を職員間で共有をして受け入れの準備は整えています。 (対象児童が今年度はいないため評価項目No.52はC評価となります)</p> |
| 52 | ② 障害のある子どもの育成支援に当たった際の留意点を踏まえ、育成支援を行っている。 | C | |
| 53 | ③ 児童虐待の早期発見に向けた取組や適切な対応を行関係機関と連携して行っている。 | A | <p>虐待の早期発見に努めており、登所時の様子や服装の乱れ、傷などを含め気になる点はないか確認をしながら受付をしています。気になる言動があった場合は、学校と情報共有し、必要に応じて子ども家庭支援センターとも連携を図るようにしています。</p> <p>現在、国籍等が異なる子どもの利用はありませんが、法人に在籍している外国籍の職員に定期的に来てもらって、文化の違いなどを伝えながら子どもたちと一緒に過ごすイベントを実施しています。</p> |
| 54 | ④ 子どもの国籍や文化、習慣等の違いに関わらず、互いを認め合い理解を深めるような取組を行っている。 | A | |

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|-----------------|--|----|--|
| (5)適切なおやつや食事の提供 | | | |
| 55 | ① 放課後の時間帯におやつを適切に提供している。 | A | おやつは毎日16時に月毎に決められたメニュー表に従って提供されています。月1～2回、誕生日会などに合わせて特別メニューの日を設けて、子どもたちの意見を取り入れながら普段と違うおやつを楽しめるようにしています。 入会時や年2回アレルギー調査票を配布して、子どもたちのアレルギー状況を確認しています。食物アレルギーを持つ子どもについては、個別に状況確認を行い、除去食を提供するようにしています。納品時・配膳時の提供メニューのチェックは必ず複数名で行い、ミーティング内でメニューと代替え食品を職員間で確認しています。 |
| 56 | ② 食に伴う事故(アレルギー、窒息、食中毒等)を防止するための対応を行っている。 | A | |
| (6)安全と衛生の確保 | | | |
| 57 | ① 子どもの安全を確保する取組を行っている。 | A | 毎月、子どもたちと一緒に防災・防犯を想定した避難訓練を実施している他、常勤職員は普通救命講習を受講したり警察署の協力を得て毎年防犯講習も実施しています。 おやつの配膳に関わる職員は、毎月検便を実施して衛生面のチェックを徹底しています。日々の掃除・消毒をチェックリストを活用しながら行ったり、嘔吐を想定して常に処理セットを常備・補充してすぐに対応できるようにしています。 |
| 58 | ② 衛生管理に関する取組を適切に行っている。 | A | |

IV-2 保護者・学校との連携

| | 評価項目 | 評価 | 講評 |
|------------|----------------------------------|----|--|
| (1)保護者との連携 | | | |
| 59 | ① 保護者との協力関係を築いている。 | A | コロナ禍のため、親子行事や保護者会は実施できていませんが、保護者とは連絡帳や面談、電話などで日々コミュニケーションを図り、問い合わせ等にも丁寧に対応するよう心がけています。 |
| (2)学校との連携 | | | |
| 60 | ① 子どもの生活の連続性を保障するため学校との連携を図っている。 | A | 小学校とは子どもの事だけではなく、活動の状況、コロナ対策等、情報共有・交換する体制を確立して連携が取れるようにしています。子どものケガやトラブル、体調不良等、学校内に施設がある利点を活かしてメモを残したり直接伝えることで、綿密な連携が図れています。 |

IV-3 子どもの権利擁護

| 評価項目 | 評価 | 講評 |
|------------------------------|----|---|
| (1)子どもの権利擁護 | | |
| 61 ① 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。 | A | 新入社員研修時、子どもと携わる仕事への心構えとしての行動規範、子どもの権利について周知しています。常勤職員は毎月、臨時職員には3ヶ月毎に心構えチェックシートを配布して、人権に配慮した対応の項目を設けて自分自身の行動や仕事の進め方の振り返りを行っています。 |

総 評

◇特に良いと思われる点

● 職員の研修・育成に力を入れています

利用者(保護者・児童)に良い保育サービスを提供する為には職員の質の向上が必要です。法人では職員の育成に力を入れています。人材育成総合計画を策定しています。キャリアパスとしての育成体系で階層(新入職員、2年目以上、施設長補佐等)ごとに計画的に研修を受けることになっています。研修は現場施設長による専門部会が担当し、研修部、安全管理部、人材マネジメント部を横断的に統合した全社研修なっています。職員は目標達成シートにより自己育成を図っています。社外研修への参加や資格取得応援制度も活用し職員の研修に偏りが無いよう配慮し職員の育成を推進しています。

● 「できること」を模索しながら地域との関係づくりを積極的に行っています

おたよりは、地域の学童保育クラブや児童館、住区センターに送って情報を発信しています。地域の児童館や学童保育クラブのおたより、区報などに目を通し、地域の福祉ニーズ等の把握に努めています。駒場小学校や児童館、目黒区の子育て支援課児童館係等とは常に連携をとり、学校や地域の情報や状況の変化などを把握できるようにしています。コロナ禍が続いている中ではありますが保護者の情報等から、子ども達の放課後や休日の過ごし方、地域で行われている習い事などの状況等、地域の子どもの実態を把握ながら、コロナ禍においても学童保育クラブとして「できること」を模索して実施するように努めています。

◇更なる改善が望まれる点

● 地域の社会資源として、中高生の社会体験への協力体制を整えることが望まれます

法人としてはボランティア受け入れ態勢を整えており、他の福祉施設での実績も多くあります。当施設も積極的にボランティアの受け入れを目指していますが、受け入れには十分な検討や準備が必要です。まずは中高生の職業体験等に協力できる地域の社会資源としての役割として、受け入れや職員の派遣等の協力をどのように果たしていくかの検討をして体制を整えることが望まれます。

● 利用者の要望・意向等を分析し更なる業務の改善につなげることが期待されます

利用者アンケートや保護者の要望・意見等は業務改善のための重要な情報となります。アンケートで「はわからない」「なんともいえない」等の回答が多い場合、要因と思われる事項を書き出して検討することも有益と思えます。一方、保護者からの要望や意見は連絡帳や保育日誌に記載されていますので、内容別に一覧化等をして数量的に集計することで全体的な状況の把握がしやすくなります。統計的手法を用いた解析、管理を進めることで更なる業務改善に繋がることが期待されます。